

岡山SRH研究会 会報誌～第10号～



平成20年4月6日発行
岡山SRH研究会運営委員会

*

桜も美しく咲きそろいました。年度はじめは、心も環境も何かと落ち着かない頃かも知れませんが、

春日のどかなこの季節をぜひ楽しんで、気持ちを新たにほんわかと、どうか笑顔でお過ごしください。

会報誌もようやく10号まで皆様にお届けすることができました。SRHの温かさが伝わるような会報づくりをこれからも目指していきます。皆様からのご意見ご感想をお待ちしております。（運営委員会 会報誌係）

第16回研修会報告

日 時： 平成20年2月16日（土）

場 所： 岡山ボランティア・NPO活動支援センター

かふえ101報告……

発表者： ピアソーター 山本美香子さん

いま若者達が向き合っている性の諸問題について、まずピアソーター自身が勉強会をして、知識を深め意識を高めたうえで、かふえ101を開催しました。（4/13(日)10:00～@ウインズクリニックかみむら）

参加者の「性の悩みを打ち明けられる友達ってなかなか居ない…」といった声を聞き、性に関する疑問や悩みをかかえてやってくる人と、「なんでだろうね」「一緒に考えよう」と、不安な心にとにかく寄り添う姿勢が、ピアに求められていることだと実感できました。そういう空間として、「かふえ101」は必ず活かされるので、これからもより有意義なものにしていきたい。…と、ピアソーターとしての新たな意欲と今後の課題などについて、発表されました。

また、コンドームについて、「KAWAIIくない現象」というものあると紹介してくれました。

か(KA)いにくい… わ(WA)たしにくい… つけてっていい(II)にくい…

「なかなか打破できないこの現象をどうすればかわいくしていけるか考えていきたい…」
この新しい発想に「なるほど…！」と、会場からもどよめきが起こりました



性同一性障害について……

講 師： 岡山大学保健環境センター・精神科医師 大西 勝 先生

大学生からの恋愛や性などについての悩みを多く受けている大西先生から、近年の相談内容の傾向と実態、また相談者としての姿勢について、さらに社会背景や診断や治療について、お話をしてくださいました。さまざまなデータや大西先生の経験話を通して見えてくる、性同一性障害を抱える人たちの苦しみや葛藤、社会生活における困難など、立ちはだかる壁の大きさを改めて確認し、考えさせられました。

座 談 会……

講 師： GQBUS 木村好亜 さん

木村さんは、誰か一人でも助けたい、苦しみを分かち合いたいという強い思いを軸に立ち上げた「性同一性障害」の自助グループでサポートし合いながら活動されています。これまでのご自身の経験や苦しみ、願いなど、ありのままを私たちにお話いただき、次のような心に響くメッセージを残してくださいました。

性同一性障害を抱える人は、多くの深い悩み（社会・職・友達・パートナー・お金・家族など）と向き合い（ときには向き合えず）、それを一人で抱えながら生きている。きっと、一人でそれと闘っている子ども達もたくさんいるはず。どうか、性について「決めつけないこと」、「その人すべてを受け入れること」を心に留めて、関わってあげてほしい。誰に対しても、一人の人間として接し、その人らしさというものを一番に見つけて理解してほしい。



私たちは、学校現場や医療現場に携わる者としてももちろん、たとえば親として、また一人の人間として、人と接するときの心や姿勢を見つめ直し、ともに考え、ともに生きることの大切さを改めて感じることができ、とても充実した学びの得られる座談会となりました。

上村茂仁先生のコラム

子どもたちと親の事件や、クリニックにこられているお母さんを見ていると、時々とても悲しくなります。子育てに疲れているお母さんの気持はよくわかります。でも頑張って欲しい。そんな気持ちで作りました。

…あかちゃんとあなたの10の約束…

（「犬の十戒」を赤ちゃんとお母さんの約束に私なりに勝手に変えてみました。上村茂仁）



1. 私があなたと一緒に暮らすのは、思いのほか長い時間です。一人で生きるためににはそれだけ長い時間が必要です。私があなたからきちんと巣立てるその時まで、何があっても私の面倒をみてもらえますか。私を産むということは、そういうことだとよく考えてください。
2. あなたが私に望んでいることを、ちゃんと分かるようになるまで、待ってくださいね。
3. 私を信頼してください…それが何より嬉しいのです。
4. 私のことをずっと叱り続けたり、厳しい罰を与えないで下さい。あなたには仕事や楽しみやたくさんの友人がいるけれど、私には…あなたしかいないのです。
5. いつも私に話しかけてください。たとえ、あなたの話す言葉がわからなくても、あなたの声を聞けば、私に何を言ってくれているのか、分かるのです。
6. 私にどんなふうに接しているか、考えてください。あなたがしてくれたことを、私は決して忘れません。
7. 私を叩く前に思い出してください。私はあなたにとてもやさしく接することはできてもあなたを叩くことは出来ないです。
8. 言うことをきかないとか、手におえないとか、急げ者がと叱る前に、そうさせる原因が無かったか、思い起こしてください。赤ちゃんといつも相手をしてくれたでしょうか。一人ぼっちの部屋で泣いてもほったらかしにしてなかつたでしょうか。お腹がすいているのに、気づいてなかつたことはないですか。私は何か病気で動けなかつたり、苦しんでいるのかも知れません。
9. 私が、大きくなつてもいつまでもあなたの子供です。あなたの背中を見ながらいつも育つてゆくのです。
10. そして、私があなたから巣立つとき、ちゃんと私を送り出してください。寂しいとか辛いとか言わないで下さいね。いつもあなたが傍に居てくれたから、私はこうやって大人に成れたのだということにあなたは自信を持って、私をしっかり送り出してください。

そして、どうか忘れないで、私はいつまでもあなたを愛していることを。



コラムバトンリレー

第9走者 >>> 助産師・思春期保健相談士 井上理絵

みなさん、こんにちは。岡山に思春期についての勉強会があるとお聞きして、この会に入会して1年以上になります。私は助産師として岡山の病院で働いた後、関西方面でアクティブバースに携わったり、開業助産師として働いたり、と変わった経歴を持っています。様々な場所で、沢山の方と会う中でいつも思い知らされたことは、自分の力不足でした。そんなとき縁あって看護学校の教員になったのが今を去ること十年前のことです。

入学してくる学生達は、程度の差はありますが看護の世界に少なからず興味をもち、人体の不思議や看護という職業への憧れを持っています。その中でも妊娠・出産に関わる母性看護学は興味ある科目の一つのようです。その興味を失わないためには、押し付けのように教えるのではなく、自分の体に真剣に向き合ってもらうように手助けをすること…。これしか教員の役割はないという大きな学びを得て、3月で教職を去り次の目標を定めている最中です。

思春期の真っ只中にある若い世代の人たちも、「性」に興味はあるけれどそれを教えようと押し付ければ、興味は瞬く間に消えるのかもしれません。開業助産師の頃、ある中学校で性教育を頼まれたことがあります。そのときの感想文に「性教育はいやらしいもので、年寄りのおばさんが教えに来るものだと思っていたが、おばさんではない人が教えにきた」と書かれてあり、苦笑いをしたことがあります。この中学生の勘違いを少しでも正すことができたら良いのですが…(笑)。現在でも性教育・思春期教育はいやらしいと感じる人が多いのかもしれませんね。幸いなことにSRHに所属している職種は様々あり、この連携を強みにしながら活動できたら、私でも役立つことが少しでも増えるのではと期待しています。



これからも学生達や若い世代の人たちが持つ興味の芽を枯らさないように、手助けをしていきたいと微力ながら思っていますので、どうぞよろしくお願いします。

れんらく

* 次回は、5月18日(日)に総会および研修会を開催予定です。同封の案内をご覧ください。

・ <岡山SRH研究会> お問い合わせ先はコチラ FAX: 086-803-5336 E-mail: srh_ok2000@yahoo.co.jp

